

錦糸町わくわく通信

2020.02
第30号

●お問合せ●
東都よみうり新聞社
TEL.03-6663-9010

錦糸公園桜まつり

四月二日(水)～十九日(日)

期間中は450個の提灯が取り付けられ、お花見気分を盛り上げます。今年は芝生広場中央にあるしだれ桜へのライトアップや公園入口からの京行燈の点灯も復活します。



桜まつり 開催概要

【主催】 錦糸公園桜まつり実行委員会
【日時】 4月1(水)～19日(日)
【場所】 錦糸公園(JR・東京メトロ錦糸町駅北口から徒歩1分)

【東武ホテルレバント東京】

魅惑のディナー& Dr.レオン COMPLETE LIVE



宴会場「錦」リニューアル記念イベント。ホテル自慢の料理を味わいながらテーブルマジックをお楽しみいただき、マジックショーでは世界的マジシャンDr.レオンが目の前で繰り広げる奇跡の目撃者に！合言葉は「コンプリート！」

【日時】 3月18日(水)
ディナー 午後6時30分～
イリュージョンマジックショー 7時30分～

【会場】 東武ホテルレバント東京 4F「錦」

【料金】 料理、飲み物、マジックショー
大人(中学生以上)1名16,000円
子供(小学生)1名8,000円(共に税込み)

【出演】 Dr.レオン、チームDr.レオン

【問い合わせ】 販売促進部セールス課
TEL.03-5611-5623

【新日本フィルハーモニー交響楽団】

特別演奏会 五木ひろし 50周年記念 シンフォニックコンサート



日本歌謡史に刻まれるまたとないコンサートが実現！五木ひろしが新日本フィルと紡ぎだす名曲の数々。本誌特別優待あり!!

【日時】 3月7日(土) 午後2時開演
【会場】 すみだトリフォニーホール
【出演者】 歌:五木ひろし 指揮:藤野浩一
【錦糸町わくわく通信 特別優待】
S席 7,700円、A席 5,500円のところ、
S席 6,930円、A席 4,950円

※電話で申し込みの際に「錦糸町わくわく通信を見た」とお伝えください。オンラインでのご注文は優待価格が適用されません。

【問い合わせ】 新日本フィル・チケットボックス
TEL.03-5610-3815
(月～金:10～18時/土:10～15時/日・祝:休)

「錦糸町駅前プラザビル」今春オープン! 南口駅前に新たなランドマークが誕生

「錦糸町駅前プラザビル」(江東橋3-8-7)が、装いも新たにガラスの器、となってこの春にお目見えする。地上8階建ての建物は、大通りに面した壁面に反射率の違うガラスを採用し、水面の「きらめき」を表現。四季のうつろいやイベントをイメージした演出照明も街の風景にアクセントをつける。テナントはさまざまな飲食店が集結し、3階までの「カジュアルゾーン」にはファミリーレストランやファーストフードなど旧ビルからの人気飲食店が入る。このほかに新店「北斎麦酒醸造所」は墨田区的地ビールメーカー「ヴィルゴビール」が手がけるタンク直結の新鮮なビールを提供する。4~6階は居酒屋やカラオケ店などの「ワイガヤゾーン」、7~8階は「プライムゾーン」として個室を完備した和食、焼肉、中国料理の飲食店が営業し、スカイツリーも見渡せる景観を提供する。



大通りに面した壁面はキラキラと光を反射する

会員情報

たばこを吸う方・吸われない方が 心地よく過ごせる社会へ

【企業情報】日本たばこ産業株式会社(JT) 東京支社東部第二支店
【所在地】墨田区横川1-16-8

JT東京支社営業部門として、墨田区・江東区のとばこ販売・販促を行っています。

昨今は、たばこを吸われるお客様の多様化が進み、紙巻たばこのみでなく加熱式たばこを使われる方も増えております。その中で、私共JTは、商品の多様な選択肢をご提供することはもちろんのこと、たばこを吸う方・吸われない方が共存できる環境作りのサポートにも力を入れています。錦糸町には、他部門を含め総計600人以上の社員が在勤しており、今後も、地域の皆さまや企業様と繋がり、JTとしてお役立ちできればと考えております。喫煙環境作り等でご相談があれば、お気軽にお問合せ下さい。

【問い合わせ】 ☎03-3625-4861

錦糸町の

語り部たち

町の重鎮に聞く土地の記憶

第3回(後編)



山田 昇さん(71)

(株式会社山七食品代表取締役社長)
墨田区商店街連合会会長

※このコーナーでは昭和から平成にかけて錦糸町の変化を見てきた町の重鎮の方々に思い出を語ってもらいます。シリーズ第3弾は**名物人形焼「山田家」・山田昇さん**のお話です。

——商店街の一員として夏の名物行事「錦糸町河内音頭大盆踊り」には初開催の時から関わってきたそうですが、当時のことを教えてください。

山田:1970年代の終わりごろ大阪発祥の河内音頭を東京に持ってこようという若者たちがいて、ノンフィクション作家の朝倉喬司さんが結成した「東京河内音頭振興隊」が、江東橋3丁目にあったパチンコ店「ギンセイ」の2階スペースで開いたのが始まりです。「下町タイムス」というタウン紙を発行していた今泉清編集長が朝倉さんに場所を紹介したのが錦糸町との縁になりました。最初の2年間はライブ演奏だけだったのですが、踊れないと客にもフラストレーションが溜まってくるので、翌年は現在の墨東病院の前身となる墨田病院が移転した跡地を借りて「第1回錦糸町河内音頭」として開催しました。この所有地が駐車場になる時に会場を豎川親水公園に移して今に至ります。

——山田さんは地元側としてどのような立場だったのですか。

山田:当時は錦糸町商店街振興組合の青年部長をやっていました。話が来た時は「なぜ河内音頭?」と思いましたが、「カップ市」や朝市などイベントをいろいろ企画しながら町おこしを模索していた時期だったので、新しい取り組みにも前向きでした。



——38年続く名物行事となりましたね。

山田:最初の開催は予算など諸々の条件がうまくはまり、実行につながったと思います。河内音頭の本場から来た人々からは「町の雰囲気似ている」と言われたこともあります。土地柄も含めて相性が良かったのかもかもしれませんね。

——現在の錦糸町南口商店街はいかがですか。

山田:かつて200店舗近くあった加盟店も現在は40店舗に落ち込み、貸しビルのテナントは地域のことに興味のない人がほとんど、というのが現状です。でも「錦糸町を元気にする会」のように地域を後押ししてくれる組織ができてくれることで、これまでとは違ったタイプの人たちが町の盛り上げに関わってくれるようになり、ありがたいことだと思います。

※今年の「錦糸町河内音頭大盆踊り」は、例年の8月最終週から7月8日(水)・9日(木)に前倒して開催します。
(2019年9月13日取材)